

国民保護計画づくりが、各市町村で進められています。 自分の住んでいる自治体の動きを知ることから始めましょう！

ほとんどの自治体で「国民保護協議会」が設置され、「保護計画」の策定作業が進められています。今回は枚方市の取り組みの紹介を通して、今後の参事になればとおもいます。

枚方市では、国が示したスケジュール通りの日程で、しかも国が示したマニュアル通りの内容の「計画案」が「協議会」に諮られています。「協議会」は6月・8月と2回開かれましたが、型どおりに進行し時間どおりに終了する「儀式」になっています。「国民保護法」に定める政府の狙いは、全国の自治体が自衛隊員を正式の委員とした協議会で「有事訓練計画」を立てさせることです。国の指示どおり行政内部で全てを決め、委員とのやりとりも形式的で、市民の耳目が集まらないうちに全てを終えてしまおうとの意図が明らかです。

これを許してはならないと枚方では次のような運動が取り組まれています。

「協議会」への傍聴参加を市民に広く呼びかける

「協議会」には議員も参加できず、「保護計画」は議会に報告の義務があるだけ。市民が注視し宣伝しなければ密室協議に終わります。「武力攻撃事態における国民保護計画」が市役所で決められようとしていること、その会議に軍事の専門家として自衛隊員が

委員に入っていることを市民に知らせ、傍聴参加を呼びかけています。

また、協議会運営がどこまで民主的に行われるかも重視しています。傍聴の人数制限、当日資料の扱い、協議会の開催日、議事内容等を市民への周知等々についてです。委員相互の審議も民主的であるかどかも重要です。

枚方では、マイクの不備、傍聴者の機の準備、当日資料の持ち帰り不可も改善要請をし、一部改善されました。

申入れ行動を繰り返し行う

市役所と「協議会」に対して、市民の監視と「計画」の基本姿勢に対して意見を反映させるを保証すること。

「協議会」委員の構成の問題点として自衛隊員の委員委嘱は撤回すること、「国際人道法」の専門家を委員に招致することの申し入れをしています。この申し入れ内容を市民に知らせるとともに、市会議員や40人の協議会委員にも面談を求め書面を配布し問題点の共有化をはかるよう努めています。

また、一回目の協議会の際に自衛隊員が、迷彩服で装甲車に乗って現れたことに対し、抗議文を提出し、協議会委員、議員にも配布しました。二回目は、迷彩色は袍だけになりました。「協議会」の運営と審議内容の一つ一つに



注意を払い密室での進行を許さないことは、自衛隊を「軍隊」として地域に届つかせないためにも本当に大切なことです。

「計画案」に対して市民の視点から分析し問題点の整理を行う

「武力攻撃事態における国民保護計画」とは戦争を前提にした計画であること、ありえない事態を想定し仮想敵をつくり市民に不信感・恐怖感を広げることでは成り立たない計画といえます。そして、「武力攻撃」戦争を前提にするなら武力紛争時の国際的なルールはどうなっているのか、この点から議論を始めなければなりません。そうでなければ他国他民族を蔑視し敵視することから策定された1937年の『防空法』の焼き直し以外の何物でもないからです。

現在の武力紛争時の国際的なルールは、戦争は違法であること、市民を戦争に巻き込んでほならないことが到達点です。日本政府も2004年に加入した「ジュネーブ条約追加第一議定書」は文民・民物と戦闘員(自衛隊員)・軍事物は完全に分離することを求めており、人口が集中している地域やその付近には軍事目標を設置してはならないなどが規定されています。この国際的なルールから見れば、「計画案」は市民を戦争に巻きこみ犠牲性を拡大するものとなります。

基本計画を作り、有事訓練につながる動きを止める動きを！

市民アンケート(パブリックコメント)へも「保護基本計画は不要」という批判的な視点から参加しますが、「聞きつばなし」や木で鼻をくくった回答を許さないためにも、「協議会」での検討や担当部局との面談・交渉を要求していきましょう。

基本計画の 軍事的公共の下に基本的人権は侵害されていないか、地方自治体の権限をおかしていないか、国民と指定公共団体の責務は国民統制につながるのか、枚方市の非核平和宣言との関係はどうなのか、といったような視点で、「計画案」を洗い直し、その危険性を暴露していくことが大切でしょう。

枚方では、9月議会で総務委員協議会に基本計画案が報告がされますが、議員からも一般質問が出るよう働きかけをします。9月の市民パブリックコメントを経ての十一月第三回協議会にて「答申」、来年の3月議会にて「報告」し計画案を完成予定ですが、密室で市民の耳目を封じて戦争計画を作り上げようというのが国と自治体の狙いである以上、「計画案」の内容や審議過程市民とのやりとりを通じて「戦争計画」の危険性を市民に伝え、戦争訓練に市民を動員しようとする危険な計画を許さない市民力を強めていきます。